

[ライブ・サーティ]

Live30

<http://www.omichikai.or.jp>

VOL.

218

2016年
9月-10月



CLOSE UP

大道会の介護サービス ③特別養護老人ホームサンローズオオサカ

OMICHI ACADEMY

第23回国際障害者歯科学会議

第7回 日本ニューロリハビリテーション学会学術集会

OMICHI SCRAMBLE

小児病棟で虫歯予防啓発運動を実施

熊本地震におけるJRAT支援活動に参加

INFORMATION

東中浜ケアプランセンターを開設

森之宮病院の「理念」と「基本方針」を改定



最優秀賞
「Live30」
福祉の発展に貢献している
最も優秀な企業に贈られる
日本一を贈ります
日本経済新聞

大道会の介護サービス③ 特別養護老人ホーム サンローズオオサカ



通所介護(デイサービス)のご利用者の皆様



大道会グループの一員である特別養護老人ホームサンローズオオサカを運営する社会福祉法人山水学園は、戦後の混乱がまだ治まらないなか昭和25(1950)年に保育事業に着手し、昭和50(1975)年に社会福祉法人格を取得しました。この間、時代のニーズに応じて、順調に保育所の定員数を拡充するとともに、高齢化社会の到来に備え、平成9(1997)年、東成区内で初めてのデイサービス事業を併設した特別養護老人ホームを開設するに至りました。その後、平成12(2000)年の介護保険制度の施行に伴い、訪問介護事業、居宅介護支援事業等を開始するとともに、地域包括支援センターのランチや認知症対応型通所介護事業の開設等、それぞれの時代の要請を先取りした事業展開を行い、地域から信頼される施設として成長してきました。

社会福祉法人とは、社会・地域における福祉の発展・充実を使命とする公益を目的とした民間の非営利組織で、地域の住民が日々の生活のなかで必要とする様々な福祉サービスを提供し、支援するために「社会福祉法」に基づいて設けられています。

サンローズオオサカの特徴

1 社会福祉法人としての役割と使命

サンローズオオサカでは、常時介護を必要とされる高齢者に、心身共に安定した老後の生活のお手伝いができるように、要望に応じた質の高い介護サービスを提供しています。また、地域に対しても、施設を持つ様々な機能を社会資源として開放し、開かれた施設として、地域の高齢者に在宅福祉サービスをご利用頂いています。

2 多様な利用者のサービスの展開

平成12年度に施行された介護保険制度は、3年ごとの制度改正に際して、その時々々の政治・経済状況を反映させるため見直しが行われてきましたが、サンローズオオサカはその時代の利用者ニーズを先取りした取り組みを行ってきました。特別養護老人ホームやデイサービスの定員数を徐々に増加させた

ことに加え、デイサービス、ヘルパーステーションにおいては、営業時間の延長と日・祝日営業にも踏み込む等、他事業所に先駆けて行ってきました。そして、特別養護老人ホームでは、終末期の看取り介護にも早くから着手してきました。

事業所紹介

入所・ショートステイ



私達がめざしている介護は、「利用者が豊かに暮らせる」ことです。施設の生活空間に昔の家具を配置して、家庭的な雰囲気を作ったり、施設内外での行事に参加し、終末期ケア(看取り介護)に力を入れて、ご家族と一緒に最期まで看取ったりと、高齢者がここで生活できて良かったと感じて頂ける介護・看護にスタッフ一同、努めています。

通所介護(デイサービス)

デイサービスでは、ご利用者の持っている「できる力」や「やってみよう」という気持ちを引き出すために、日々のレクリエーションに力を入れていま

す。「自分ができていることは自分で！」を可能にする支援や、もしできなければ周りの方達に助けて頂けるような関係作りを大切にしています。また、医療ニーズの高い重度の方のご利用にも積極的に対応しています。

認知症対応型デイサービス あかね

当たり前前にある日常生活の「コマ」が、認知症により難しくなっていることを見極め、さりげなくお手伝いすることを大切にしています。少しでも自分らしく、やりがいを持って過ごして



頂きたい、そんな思いで皆さんと時間を共にしています。元氣いっぱいスタンプばかりです。

訪問介護 (ヘルパーステーション)

現在、4名のサービス提供責任者と7名のヘルパー、計11名で地域のお宅を訪問しています。直行直帰型ではないので、ヘルパー同士の連携・仲の良さも自慢の一つです。

オムツ交換や入浴等の介助はもちろ



ん、掃除・洗濯・買い物やその他も、日々の生活に密着した支援を心がけ、ご利用者が笑顔で暮らせるお手伝いをさせて頂きます。

居宅介護支援事業所

当事業所は介護保険が導入され

た平成12年に併設されました。圏域は東成区なので、地域に密着した事業所運営を行っています。また、同性のケアマネジャー希望に対しても対応できる体制をとっています。主任ケアマネジャー2名で、今後の新人ケアマネ



ジャーの指導にも力を入れていき、さらに地域に信用、信頼される事業所をめざしていきたいと思

東陽地域総合相談窓口 (プランチ)

当事業所は、東成区北部地域包括支援センターから総合相談と権利擁護

(高齢者虐待、金銭管理、消費者被害防止等)の委託を受けて、専任担当者1名で業務に取り組んでいます。生活上の困りごとがあれば、様々な制度や機関・事業者「つながり」ということが仕事内容です。昨年より、地域住民と事業者



の顔が見える関係づくりを目的とした地域イベント等も企画立案して、ネットワークの構築にも取り組んでいます。

3 地域に密着した 活動拠点として

サンローズオオサカでは、様々なボランティアが活躍されています。また、入所家族の方を中心とした家族会の活動も継続しています。会員の方の多くは、すでに遺族になっておられるにもかかわらず、夏の納涼祭や冬の餅つき大会等の季節の行事にも参加して下さい、引き続きサンローズに愛着を寄せて頂いていることは、大きな財産だと思

っています。その他、在宅介護支援センター(地域包括支援センタープランチ)では、総合相談窓口を中心として、様々な機関や団体とつながって要介護者の支援を行っています。

今後の展開

平成29年4月の社会福祉法の改正によって、社会福祉法人の制度が大きく変更されます。社会福祉法人は、税制上の優遇措置が適用されていることから、多額の内部留保を貯め込み、社会還元していないとの批判が生じています。しかし山手学園は、社会医療法人大会と協働して法人経営の透明性と健全性を確保するための努力を行ってき

ました。さらに、大阪市の保育所待機児童解消の一助として、本年4月には法人内のもう一つの施設である保育所(東成山手学園)の全面建て替えを行い、定員増を図りました。また、介護保険事業では、従来から中重度の要介護者や認知症ケアに力を注いできた結果、その努力が、新たな加算制度として報われることになりました。2025年問題を控え、介護保険給付額の増大や介護人材の慢性的不足等で厳しい状況にあっても、地域のなかで存在感を発揮できるように、社会福祉法人としての役割と責任を自覚し、質の良いサービスを今後とも提供できるよう職員一丸となって努力していきます。



発表報告

第23回
国際障害者歯科学会議



森之宮病院
歯科診療部長
旭吉直

今後も全身麻酔を使った
歯科治療の安全性について
研究を続けていきたい

日程：4月14日～17日
場所：アメリカ合衆国・シカゴ

国際障害者歯科学会議は2年に1度開催され、世界各地から障害者歯科診療に携わっている歯科医師や歯科衛生士等が集まり、日頃の研究成果を発表し討論を行っています。今回は「A dental treatment system using intravenous sedation and general anesthesia for patients with disabilities in a rehabilitation hospital(リハビリテーション病院における静脈内鎮静および全身麻酔を用いた歯科治療システム)」という題名で、当法人において静脈内鎮静あるいは全身麻酔下に行っている歯科治療の安全性についてポスター発表を行いました。静脈内鎮静や全身麻酔下の治療は国際的にも関心が高いようで、当法人の方法について色々な国の歯科医師から例年よりも多く質問を受けて説明しました。全身麻酔を使った歯科治療は各国の医療体制の影響を強く受けます。日本

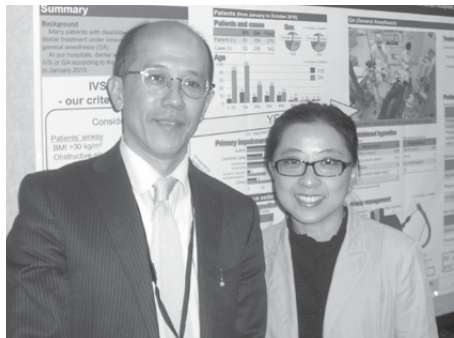
は他国よりも歯科医師の裁量権が大きいとの印象を受けました。シカゴは摩天楼発祥の地で、新旧の高層ビルが建ち並ぶ美しい街です。それでもアメリカは銃社会なので、当初はとても不安でしたが、人々は優しく気さくで安全に過ごすことができました。超高層ビルの展望台からの景色は最高で、大平原とミシガン湖の雄大な眺めは一生忘れられないと思います。

今後、障害のある人達に対する歯科治療のために臨床研究を続けていきたいと思っています。

発表報告

第7回日本ニューヨーク
リハビリテーション
学会学術集会

日程：5月21日
場所：神戸国際会議場



ポスターの前でマレーシアの歯科医師と

回復期病棟における転倒関連
要因に関する研究を発表



森之宮病院
リハビリテーション部
理学療法科
田邊憲二

本学術集会はニューヨークリハビリテーションに携わる医師や療法士、看護師や臨床心理士、脳科学者を始めとした研究者の他、リハビリ工学のエンジニア等が参加し、日頃の研究や臨床、診療や教育の成果を発表するとともに、ニューヨークリハビリテーションに関する最新の知識と情報を交換・発信する場です。

今回、私は「回復期病棟における転倒関連要因の検討」を演題名とし、転倒をテーマにポスター発表を行いました。転倒場所は「病室」が多く、そのきっかけは「トイレ(行こうとする・戻ろうとする)」であること、転倒前の姿勢は「坐位」が多く、転倒後の姿勢は後方転倒が多いことがわかりました。よって、転倒を予防するためには、病室の環境整備の他、座位から始まる一連の動作(歩行や移乗等)が安定するような理学療法介入が有効であると結論づけました。発表内容に関して、転倒発生の多い時間帯や、転倒が運動機能とどのように関連しているか、転倒に至る動作はどのような動作が考えられるかなど、様々な意見を頂くことができました。

回復期病棟での転倒予防は医療安全上重要な課題ですが、転倒がどのような動作で発生しているのかは明らかになっていない現状があります。本研究により転倒予防には歩行だけではなく、移乗にも注目する必要がある可能性が示唆されました。

今回の研究結果を今後の臨床に生かしつつ、研究のさらなる発展につなげていきたいと考えています。



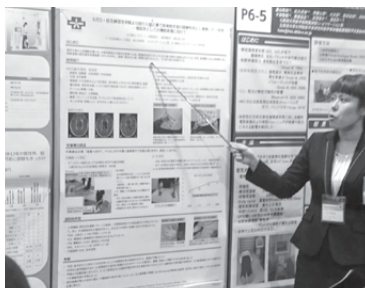
森之宮病院
リハビリテーション部
作業療法科
小谷真以

復職へ向けて作業療法を行った
症例についてポスター発表

本学術集会では、「ニューヨークリハビリテーションにおける基礎から臨床への橋渡し」という大会テーマの下、多くの講演やシンポジウム、発表を聴講し、改めてエビデンスに基づいた治療立案や支援の大切さを実感しました。

今回、私は復職へ向けて作業療法を行った症例についてポスター発表を行いました。他病院の方や他職種の方と意見交換をする中で、人に伝えることの難しさを感じ、様々な視点からの意見を頂いたことで自身自身の知見を深めることができました。今回の学会全体を通して、患者さんと直接関わるセラピストとして、常に自分が行っている治療の根

扱や意味を念頭において実施することの重要性を再確認しました。そして、チーム医療とは臨床で働いている職種だけでなく、細胞レベルで研究されている医師も含むのだと実感しました。学会のテーマである「基礎から臨床への橋渡し」を行う為にも、我々セラピストもより多くの知識を身に付ける必要があります。今回の学会で学んだことを今後の治療や作業療法士としての役割・職種との連携に生かしていきます。



ポスター発表を行う小谷科員

参加報告

情報化時代の
ICT基礎「前編」



森之宮病院
システム管理室
情報システム課
菊川 悠人

更に安全で有用なシステム開発・
運用に取り組んでいきたい

日程：4月27日
場所：富士通システムラボラトリ

インターネットの普及とともに新しい技術や機能が生まれ、情報通信技術（ICT）は常に進歩していきま。それとともにICTに関する用語も増し、複雑化してきました。

たとえば、世界で通信機器の識別番号として使用されているIPアドレスは、今までIPv4の32ビットで表されていました。しかし、インターネット利用者数増加で、パソコンが1人1台の時代となり、IPv4で表すことが可能なアドレス数が現在の人口より少ない「アドレスの枯渇」が問題視されました。重複することができないアドレスの枯渇問題の対策として、128ビットでアドレスを表すIPv6が開発され、さらにアドレスの自動構成、セキュリティ機能の追加、ヘッダ情報の簡略化等の改善が行われました。

このように、単に用語の意味を知るだけでなくその背景を学び、正確な知識を得ることが、医療システムの構築・保全にとっても不可欠です。同時に、情報漏洩、個人情報保護に関しても新たな脅威が生まれているため、攻撃や侵入されることを前提としたセキュリティ対策や個々人の意識を高めていく必要があると感じました。

今回の研修では今まで理解できていなかった部分に気付きが得られました。これを糧に、さらに基礎から

ICTについて勉強し、安全で有用なシステム開発・運用に取り組んでいきます。

参加報告

キャリア入職者研修会

日程：5月10日
場所：森之宮病院



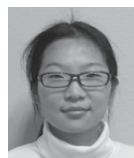
ボバース記念病院
看護部2階病棟
王 惠

知識と技術を高め患者さんに
寄り添う看護が大切

今回の研修の「新人に望む10のポイント」で、自分のスキルや知識を高めることで患者さんに質の高いサービスが提供できることを学びました。その為には、まず目標を立て、その目標に向かって自信を持ち、どんな仕事にも積極的に全力で取り組むということが大切であると改めて感じました。そして、医療はサービス業であり、相手に対する「思いやり」「優しさ」「気遣い」を言葉や目に見える形で表現した接遇の意識を大切に、知識と技術を高め患者さんに寄り添う看護を行うことが理想だと思

いました。また、守秘義務については、看護師は個人情報を多く取り扱う職業なので、取り扱いには細心の

注意を払いたいと思います。大道会の職員になれたことは光栄です。初心を忘れず、ボバース記念病院で看護技術を学び、一生懸命働き、役割を果たせられるようにしたいと思ひます。



ボバース記念病院
看護部2階病棟
張 碧雲

努力を怠らず一生懸命取り組む
決意をした

キャリア入職者研修に参加し、たくさんのことを学びました。まず、天野常務理事の講義では、達成時期とゴールを決め、どんな小さな事でも丁寧に取り組み、計画を立てて前に進んでいくことが大切であると学びました。その他の講義で、日本の「医療・保健・福祉」を取り巻く環境は厳しいことを知り、職員一人ひとりの努力が大道会の経営につながっており、私自身も努力を怠らず、一生懸命に取り組んでいかなければいけないと決意を新たにしました。

ボバース記念病院で看護師として働くことができ、幸せに思っています。今後、日本語でのコミュニケーション能力を向上させ、看護師としての技術知識を身につけ、気遣いや心配りのできる看護師をめざしたいと思ひます。

ポバース
記念病院

笠松科長が大府看護事業功労者 として表彰されました

5月14日、ポバース記念病院看護部外来の笠松科長が、永年の功績に対し大府看護事業功労者表彰式で表彰されました。看護功労者表彰は府内で20年以上にわたり看護職に従事し、特に功績の優れた方々を表彰するものです。

当日は、白樫看護部長とともに花束を持ってお祝いに駆けつけました。笠松科長はいつ

も笑顔が絶えず、よく気が付いて積極的に話しかけてくれる太陽の様な存在です。

緊張感あふれる中、授賞式が開催されました。普段見慣れている笠松科長ですが、いつもとは違う凛々しい姿で、改めて名誉ある素晴らしい事と強く感じ、感銘を受けました。

これからも信頼される明るい笠松科長が看護の場で活躍



白樫看護部長と宮里主任に囲まれて笑顔の笠松科長

することを願っています。本当におめでとうございます。
(ポバース記念病院3階病棟主任 宮里佳奈)

森之宮病院

小児病棟で虫歯予防啓発運動を行いました

6月23日、森之宮病院の3階小児病棟で、森之宮病院歯科診療部の歯科衛生士と歯科衛生士養成校の臨床実習生による虫歯予防の劇を行いました。

妖怪ウォッチの人気キャラクター達と一緒に虫歯菌や虫歯伯爵を歯ブラシで退治し、銀歯をつけたりフッ素を塗ったりと虫歯について学べる内容となつて

います。また、今回はおやつに関するクイズも出題しました。虫歯になりにくいおやつはどっちかな？と出題すると、多くの子ども達が「はい！」と元気いっぱい手を挙げてクイズに参加してくれました。

今後子ども達が楽しく歯ブラシや虫歯について学べるような活動を行い、虫歯予防



大きなお口が登場して、子ども達も喜んでくれました

啓発運動に努めたいと思います。

(森之宮病院歯科診療部 後藤結衣)

森之宮病院

熊本地震における J R A T 支援活動に 参加しました

5月14日～17日、J R A T O S A K K A の派遣チームとして熊本地震における支援活動に参加しました。活動地域は益城町と熊本市東区で、主な活動内容は、段ボールベッドの導入やその高さ調整、簡易トイレの環境調整、屋外の段差解消等環境面の整備や、より負担の少ない移動方法の指導等を行いました。

支援活動を通して感じたことは、避難所間の連携が重要であるということです。活動していた地域では、地域の保健師と各避難所に派遣された保健師が毎日朝夕のミーティングを行い、被災者の健康状況や心のケア、課題等を情報共有し、常にリアルタイムで把握していました。また他の支援団体との連絡も密に行い、協働して保健活動に取り組んでいました。大阪が被災した場合を想定すると、



(右より)植村科員、矢倉医師、野口科員

このようなシステム構築を災害が起こる前から行う必要があると感じました。熊本地震の被災地の復興を心より祈念しております。がんばれ！熊本！
(森之宮病院リハビリテーション部 植村亮太、野口俊二)

グリーン
ライブ

第18回グリーンライブ 「夏祭り」

7月17日、第18回グリーンライブ夏祭りを開催しました。朝から多くの地域の方やご家族、デイケアのご利用者等、合わせて200名以上のご来場がありました。

限られたスペースでしたが、東中浜連合女性部の方々にご協力を頂いた屋台では、「焼き鳥」「フライドポテト」「かき氷」「カレー」「ビール」を出店し、中には売り切れが出る屋台もありました。子ども達には「綿菓子」「ポップコーン」「ヨーヨーすくい」が人気でした。



ご利用者も共に盆踊りに参加

東中浜連合女性部の皆さんによる盆踊りに、ご利用者も手拍子して歌ったり一緒に踊ったりし、ほんの少量ですが、いつもは口にする事ができないビールを美味しく飲んでいました。ほんのり赤くなった自分の顔に笑ったり、たくさんのご利用者の笑顔を見る事ができ、大変盛り上がる「夏祭り」となりました。

今年も多くのボランティアの方々にご協力頂きました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。
(介護老人保健施設グリーンライフ療養サービスマン 科主任 春日美和)

森之宮病院

平成28年度第1回 鑑賞会が開催されました

6月22日に森之宮病院1階こもれび広場にて鑑賞会が行われました。

今回は、職員の浅井さんの紹介で、友人含め3名の方々にピアノ・チェロ・バイオリンによる演奏をして頂きました。穏やかな曲や皆が知っている『情熱大陸』の激しい曲等、アンコール

を含め6曲を演奏して頂きました。

会場を歩きながら演奏する等のパフォーマンスや、アンコールの『涙そうそう』では急遽、職員が歌に参加する等、楽しい鑑賞会となりました。

演奏者、関係者の方々、ありがとうございました。



素敵な音色を奏でる三重奏

(森之宮病院レクリエーション委員会)

ボバース
記念病院

『脳卒中後遺症者への ボバースアプローチ(臨床編)』が 出版されました

古澤正道名誉副院長、鈴木三央部長が執筆した待望の『脳卒中後遺症者へのボバースアプローチ(臨床編)』が出版されました。

脳卒中後遺症者の評価から歩行・麻痺側上肢手の治療を古澤名誉副院長が、豊富な経験と科学的根拠に基づいて、詳細に記述しています。また、森之宮病院の椎名部長代理が摂食嚥下障害に対するリハビリ

を執筆されています。さらに今回は、ボバース記念病院の鈴木部長と看護師の掛越科員がタッグを組んで、日常生活

動作の介助方法と自主練習を執筆されています。リハビリだけでなく病棟との連携が、より効果を上げる事を述べています。

文中では表現しにくい治療場面を、矢印を巧みに用いて説明されており、本書がセラ



運動と医学の出版社から出版された『脳卒中後遺症者へのボバースアプローチ(臨床編)』

ピストのみならず他の医療関係者の知識と技術を高めるバイブルとなる事が期待されます。ぜひ、手に取って内容の深さを実感して下さい。
(ボバース記念病院リハビリテーション部理学療法科 市村真雅)

東中浜ケアプランセンターを開設しました

7月1日付けで、新たに居宅介護支援事業所「社会医療法人大道会 東中浜ケアプランセンター」を開設しました。場所はボバース記念病院南館北側で、病院の正面玄関からもその外観をご覧頂けます。大道会としては3つ目のケアプランセンターとなりますが、経験豊かなケアマネジャーを配置し、これまで同様、最期まで暮らしの価値を高めて頂けるよう、地域と連携してケアのお手伝いをさせて頂きます。今回の開設により、地域の方々には介

護保険をこれまで以上に身近なものとしてご利用頂けると確信しています。どうぞ、よろしくお願い致します。



住所：
大阪市城東区
東中浜1丁目5番1号

電話：
06-6962-3777

森之宮病院の「理念」と「基本方針」を改定しました



森之宮病院の開設から10年が経過し、医療を取り巻く環境も大きく変化してきました。

医療だけで完結する時代から医療・介護・福祉を含めて完結することが求められるようになりました。同時に、当院は社会医療法人としての責任も求められています。これらを踏まえ、主任以上の職員で意見を出し合い、丁寧に集約し当院がめざす方向を確認し、新たな理念と基本方針を策定しました。

■森之宮病院の理念

- 地域に信頼される、高度で安全な医療を提供します。
- 生活機能の向上に導く、質の高いリハビリテーション・ケアを提供します。

■森之宮病院の基本方針

- 社会医療法人として、地域医療・救急医療に貢献します。
- 医学的根拠に基づいた、適切な医療を提供します。
- 医療の安全性を重視した、安全文化を定着させます。
- 受診される方やご家族の権利と希望を尊重した、説明と同意に努めます。
- 人間性と技術にすぐれた人材育成のため、教育と研究を推進します。
- 地域との連携を密にし、医療・介護の垣根を越えた地域包括ケアシステムを構築します。

ご寄付・ご寄贈を頂きました

大森勉様(大阪市城東区)、中晶代様(大阪市都島区)よりご寄付・ご寄贈を頂きました。ありがとうございます。有意義に活用させて頂きます。

編集後記

皆さん、お気づきでしょうか。今号から文字が大きくなり、レイアウトも少し変更しました。以前よりも、「スッキリ、読みやすい!」と感じて頂けたでしょうか。これからも、皆さんに大道会のホットな話題をお届けできるように努めてまいります!(本部管理部人事課 片上侑香)

Live30【ライブ・サーティ】
2016年9-10月号
vol.218(隔月発行)

編集発行人/社会医療法人大道会
〒536-0023 大阪市城東区東中浜1-5-1
TEL.06(6962)9621
FAX.06(6963)2233

●本法人の経営理念

1. 社会から信頼される病院・施設づくり
2. 安定した経営基盤の確立
3. 職員の福祉向上と人材育成

●職員行動モットー

親切丁寧に(受診者・お客様・ご利用者)
待たさない/よく説明する/
連携する

■社会医療法人大道会

社会医療法人大道会本部

☎06(6962)9621

森之宮病院

☎06(6969)0111

ボバース記念病院

☎06(6962)3131

森之宮クリニック(PET画像診断センター)

☎06(6981)9600

帝国ホテルクリニック(人間ドック)

☎06(6881)4000

大道クリニック(人工透析)

☎06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ

☎06(6965)0666

訪問看護ステーションおおみち

☎06(6967)1123

訪問看護ステーション東成おおみち

☎06(6977)8680

ケアプランセンター城東おおみち

☎06(6964)5285

東中浜ケアプランセンター

☎06(6962)3777

ケアプランセンター東成おおみち

☎06(4259)5311

レンタルケアおおみち

☎06(6967)6250

■社会福祉法人山水学園

特別養護老人ホームサンローズオオサカ

☎06(6974)7388

東成山水学園(保育園)

☎06(6974)7377